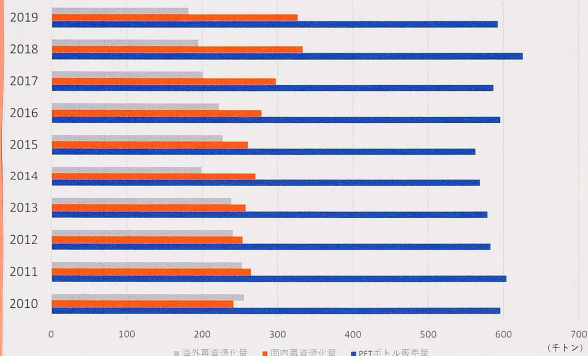
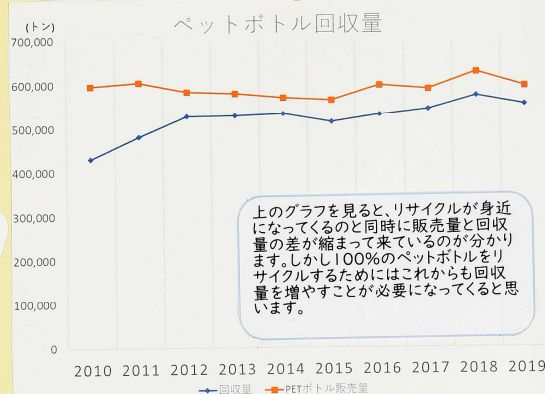


リサイクル

国内再資源化と海外再資源化



ペットボトル回収量



上のグラフを見ると、リサイクルが身近になってくると同時に販売量と回収量の差が縮まって来ているのが分かります。しかし100%のペットボトルをリサイクルするためにはこれからも回収量を増やすが必要になってくると思います。

ボトルtoボトルの増加

食品用として使用した安全衛生性の高いペットボトルをリサイクルし、再び食品用ペットボトルとして利用することを【ボトルtoボトル】と言い、下のグラフで分かるようにボトルへの再商品化が年々増加している傾向にあります。それは【ボトルtoボトル】を実施する企業が増えてきているからです。これは、CO2排出量の削減や省資源につながります。

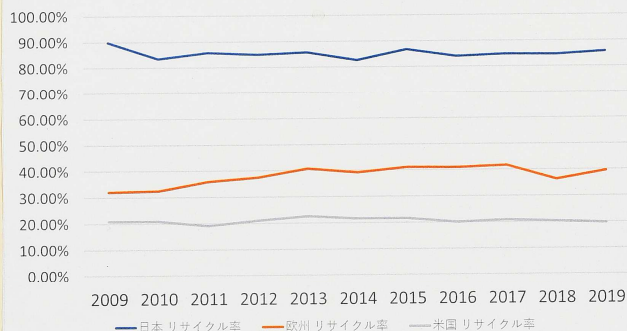


日本のペットボトルリサイクル

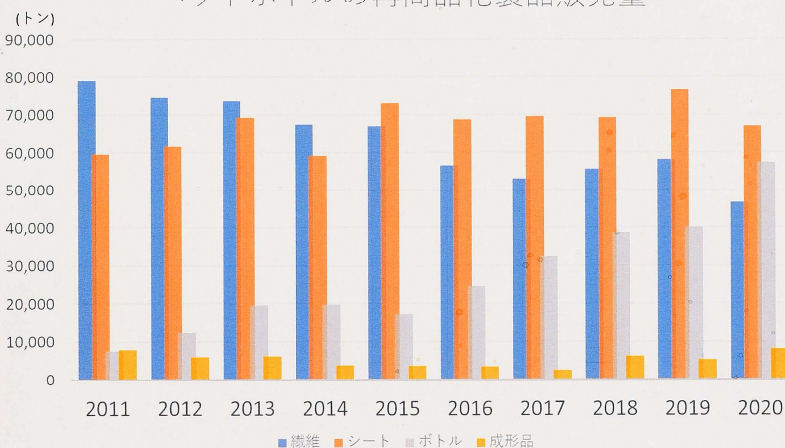


日本は、欧米と比べてリサイクル技術の発展やなどで高いリサイクル率を維持しています。

日米欧のペットボトルリサイクル状況比較



ペットボトルの再商品化製品販売量



ペットボトルリサイクルについて思うこと

日本のペットボトルリサイクルは世界的に見ても進んでいて、リサイクル量だけではなく、再商品化の点でも技術の発展でより環境にやさしく製造し、よりエコな商品になってきています。一人一人の心がけで少しでも多くリサイクルされるペットボトルが増えていけばと思います。

感想

今回、日本のペットボトルリサイクルについて調べて、リサイクルすることのメリットや日本のペットボトルリサイクルの現状、自分たちにできることを知ることや考えることが出来ました。そして私はペットボトルリサイクルへの関心が高まりました。これから今よりもペットボトルリサイクルに対してできることをしていこうと思います。

